



県北教育事務所 社会教育だより

つながれ KENPOKU

令和5年7月28日 発行

今回は、二本松市の東和文化センターで行われた福島県社会教育研修会の内容と福島市学習センター訪問の第1弾としてもちずり学習センターの取組についてお伝えします。

令和5年度福島県社会教育研修会7月5日（水） 東和文化センター

公民館等社会教育施設の利用促進に向けて～幅広い年齢層に活用してもらうために～

公民館活動に若年層をどう取り込むか

- 市民の興味関心が高い分野を知る
- 市民のニーズを知る
- 講座保育のある講座・イベントを企画する

公的な機関における学び直しを希望する方々の増加

外国語、医療・福祉、歴史・地理
資格取得につながる講座や職業上必要な知識・技能に関する学び

公民館図書室利用を促すために

「本を媒介として人と人の関係を作る」ための工夫

- 公民館講座に関係する本の紹介や展示をする
- 利用者を各種講座にお誘いする
- 利用者の声を講座開催へとつなげる
- 購入図書を選定に利用者の声を反映させる
- 公民館事業との連携を図る



※利用者との会話を事業に生かすことが大切



福島市学習センター訪問 7月7日（金） もちずり学習センター

農園での活動を通して世代間の交流をしています。

もちずり地区は、福島市の中心市街地に近く、宅地化が進み、昔から住んでいる住民と新しく住み始めた住民が混在している地域です。

「いきいきふれあい広場」では、幼稚園年長から小学4年生を対象に、農園での活動や年中行事に関する活動などを通して、地域の方々との世代間交流を行っています。

この事業には、老人クラブや女性クラブなどが、それぞれ役割を分担して積極的にボランティアとして協力しており、やりがいをもって取り組んでいます。

たくさんの種類の野菜を栽培し、夏から秋まで収穫の喜びを味わったり、年中行事に関する活動により日本の伝統を感じたりしながら、世代間交流に加え、地域の方々どうしの交流ができるよい機会となっています。

